

記者会見録(案件)

日 時 令和8年9月16日(水) 午前10時から
場 所 第2応接室
出席者 ○市 側：市長、町田副市長、総合政策部長、環境衛生部長、産業経済部次長
○記者側：9社11名参加
発表内容 ・経済産業省「GX 戦略地域(第1弾)」の認定について
・レッドイーグルス北海道アジアリーグアイスホッケー2026-2027
シーズンについて
・苫小牧をもっと誇れるまちへについて

【市長】

本日の案件は、3件でございます。

初めに、9月11日、経済産業省が推進する「GX 戦略地域制度」におきまして、本市が申請しておりました「データセンター集積型」が認定されましたのでご報告いたします。

本年4月に有望地域として「北海道」が選定されておりましたが、この度の認定は、これまで本市が積み重ねてきたゼロカーボンへの挑戦はもちろんのこと、本市が有する広大な工業用地や、国際拠点港湾・新千歳空港を擁する優れた物流インフラ、そして北海道が誇る豊富な再生可能エネルギーのポテンシャルが、国の脱炭素とデジタル化を牽引する中核エリアとして高く評価されたものと認識しております。

近年、AI やデジタル社会の進展に伴い、次世代データセンターの需要は急速に高まっております。本市といたしましては、今回の認定を強力な契機とし、道内の豊富なクリーンエネルギーを効率的に取り入れた「環境配慮型のデータセンター」の集積を目指してまいります。

これにより、デジタル関連産業の集積をさらに強固なものにし、新たな産業の創出と持続可能な地域経済の発展に向けて、全力を挙げて取り組んでまいります。

一方で、今回認定されなかった「脱炭素電源活用型」につきましては、半導体サプライチェーンの構築やエネルギー基盤の観点からも非常に重要な取り組みであると考えております。今後は、国からのフィードバックをしっかりと精査し、北海道と連携しながら、今後の認定を目指してまいります。

本市は今回の認定を大きなステップとして、脱炭素(GX)とデジタル化(DX)が調和した魅力あるまちづくりを加速させてまいります。

次に案件2「レッドイーグルス北海道 アジアリーグアイスホッケー2026-2027 シーズン」について、ご説明いたします。

本年は、「苫小牧市スポーツ都市宣言」60周年、そしてレッドイーグルス北海道の前身である「王子製紙アイスホッケー部」創立100周年を迎える、本市とチームにとってまさに記念すべき「歴史の節目」の年であります。

先週末、「アジアリーグアイスホッケー 2026-2027 シーズン」が開幕いたしました。

昨シーズン、チームは「全日本選手権」と「アジアリーグ」の二冠という、素晴らしい快挙を成し遂げられました。今シーズンは、その王者としての誇りと自信を胸に、「2年連続の二冠」という高い目標に挑まれます。新たな歴史を刻んでいただけることを強く期待しております。

アイスホッケーは、常に苫小牧の歩みと共にあり、市民に多くの夢と感動を与え続けてくれております。レッドイーグルス北海道の活躍は、単なる一チームの勝敗を超え、「氷都・苫小牧」を象徴する存在そのものです。チームを応援し、その勝利を分かち合うことは、「郷土への愛着と誇り」を育むことにもつながります。

市といたしましても、市民の皆様と共に、この特別なシーズンを全力で盛り上げ、チームを力強く後押ししてまいります。

レッドイーグルス北海道の活躍が、市民の皆様の活力となり、郷土の輝きとなるよう、市民一丸となって「2年連続二冠」という目標をわしづかみできるよう、熱い声援を送ってまいりたいと思いますので、市民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

次に案件3「苫小牧をもっと誇れるまちへ」について、ご説明いたします。

現在、「あなたの街でミーティング」を4か所で開催し、直接市民の皆様と向き合いながら、このまちの未来について、思いを交わしてまいりました。

私自身、苫小牧は、自信を持って良いまちだと言えます。だからこそ、全国の皆様から「行ってみたい」「住んでみたい」と選ばれるまちにしていきたいと考えています。外へアピールするためには、まず私たち自身がこのまちのすばらしさに気づき、誇りを持つこと。すなわちシビックプライドの醸成が何よりも大切です。

今から約60年前、世界に類を見ない壮大な挑戦として作り上げられた「掘り込み式港湾」である苫小牧港。そして、その発展を支えてきた「人」、力強い「産業」、豊かな自然、さらには、先ほど申し上げましたアイスホッケーをはじめとする活気ある文化。これらはすべて、先人たちが守り、育ててきてくださった私たちの最高の誇りであります。

最近では、北海道日本ハムファイターズのファーム誘致活動を通じて生まれた熱気と一体感こそ、私たちが今、確かに持っている「自分たちのまちは自分たちで作る」という誇りであり、シビックプライドそのものであると確信しております。

先人たちが持っていた「このまちを愛する心」や「挑戦する勇氣」というバトンを次の世代へ繋ぐため、私たちは今、同じ一つの大きな船に乗って未来へ向かって進んでおります。この港を行き交う船の「シップ」をはじめとして、私たちが大切にすべき様々な「シップ」が存在します。例えば、人と人との温かい結びつきを表すパートナーシップやリレーションシップ、そして先ほどのアイスホッケーの話題にも通じる、お互いを尊重しフェアに高め合う「スポーツパーソンシップ」の精神です。

こうした温かい絆や挑戦の心を胸に、「あなたの街でミーティング」やアンケートへのご協力を通じて、皆様の胸の内に秘められた「苫小牧の良さ」やこのまちへの思いを、しっかりと掘り起こしていきたいと考えております。

市民の皆様におかれましても、ぜひ日頃の思いを言葉にいただき、これからの地域づくりへとつなげてまいりたいと考えておりますので、アンケートへのご協力を含め、温かいご理

解とご協力をよろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。皆さんからのご質問があれば、お受けいたします。